

越後三山縦走記録



檜廊下



御月山へ



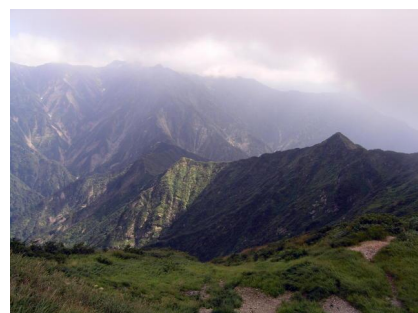
オカメノゾキのピーク



オカメノゾキ後の鎖場



荒山から五龍岳へ



五龍岳から縦走路を振返る

目的地	越後三山(駒ヶ岳～中ノ岳～八海山)		期 日	平成18年9月23～24日(祝・日)
山行人	笠原正雄・笠原澄子		特 記	越後の一大縦走路ハナコさんを逆順で歩く。
地名	(着)～(発)	天候	記 事	
22日				
夕刻出発	午後6:30	晴	勤務を終え自宅に戻らず食料調達後、本妙寺脇で妻と合流し2台で行く。	
小出ホテル投宿	9:00着		八海山ロープウェイ駐車場付近に帰り車を配して、宿に入り弁当夕食。	
23日				
枝折峠	6:30発	快晴	4:30起床。ここに到着してサンドイッチの朝食。駐車場は満杯で何とか路側に割込ませてとめる。東京夫婦(40才位)と会話する。数人が出発。	
明神峠	7:05	〃	重ね着の長袖シャツを1枚脱ぐ。この手前で、会津の山に滝雲を見る。	
道行山	8:10～8:20	〃	上がって少し食べる。春に登った柳沢と銀山平方向を確認する。	
小倉山	9:00～9:10	〃	駒の小屋泊は2人きりだったと言う単独者が、前後して下山して来た。	
百草の池	9:50～9:55	〃	荒沢岳を見渡せるが、少しモヤッている。立ち休み。	
駒の小屋前	11:00～11:55	曇 晴	直前の岩場の登りの手前でダブルストックをザックに括りつける。顔見知りとなった小屋番に挨拶をする。ベンチに20数名。赤飯昼食。途中から引水が始まった水桶で水を補給。歩き出しで朝の東京夫婦が降りて来て、少し会話する。稜線T字分岐でザックを置きカメラのみで山頂へ。	
駒ヶ岳山頂	12:15～12:20	〃	目指す中ノ岳と八海山はガスで見えない。しかし一瞬、八ツ峰が見えた。ここでの山頂標柱を入れた写真は逆光でうまく撮れない。	
天狗平	1:15～1:25	〃	休む。枝折峠～中ノ岳往復と言う長岡からの夫婦に追越される。	
H1901地点	2:40～2:50	〃	檜廊下を終え、腰を降ろす。また腹の具合が悪く、2連続ギジ打ち。	
中ノ岳避難小屋	4:15着	曇	1Fはほぼ満員。2Fに5人居た。奥の好位置に広々陣取る。	
山頂	4:35	〃	2Fに居た東京からの長靴女性と共に山頂へ。ペットボトルに詰め替えたワインを妻と順に飲んで祝登頂。小屋に4:45に戻る。	
就寝	6:30	〃	晩酌、ラーメン他で夕食。自分は分からないが、イビキをかいたらしい。	
24日				
歩き出し	5:15	曇	4時前に起き、パンとポタージュスープで朝食。薄明るくなくても外はガス。一瞬、切れ目から東の空に朝焼けを見るが、それを待って居る訳にはいかず出発。隣で眠った新潟男3人が先行する。更に単独男が追越す。ガレを敷きこまれた道の降下から始まり、樹林に入ると更に急降下が続く。逆コースだったら堪える登りであろう。	
祓川草原下水場	6:00	〃	御月山が鋭く見える。斜面草原は黄葉が始まっていた。さほど広くは無い。沢中の岩からポタポタ落ちる水を10分近くかけて2ℓ汲む。	

御 月 山	6:15~6:20	曇	中ノ岳の急斜面が見え、日向山の気象観測棟が目線の下にある。
八 合 目	7:10~7:15	〃	石柱が倒れている。何処からかは不明。また出雲先も分からずじまい。
鎖 の 急 降 下	7:30	〃	喬木がトンネル状になっている急降下に7~8本連続する太い鎖がある。ストックを収納して降りる。
オカメノゾキ	8:05~8:15	曇 晴	右下に雪溪の残る沢が蛇行し、鋭く迫るように見える。左から檜倉沢の雪溪の水音が届いて来る。気分の良い岩場に腰を下ろし地形図を確認する。やせ尾根もさる事ながら、上げ下ろしの激しさが思いやられた。
最 低 鞍 部	8:30	〃	標高 1200mの一番低いと思われるところを通過。約 800m 降ろされ、今度は約 600mの登り返しだ。それも一筋縄ではない登下降を繰り返す。日向山の気象観測棟も見上げるようになり、十字峡の建物も見える。
靴紐を結び直す	9:15	〃	ほどけた紐を結びなおして少し立ち休み。
荒 山	9:45~10:05	〃	地形図には三角点が記されているが、分からなかった。緩やかに3峰を成す。3つ目の気分の良い岩稜ピークで汗のシャツを脱ぎ乾かす。おにぎりを1個ずつ食べ大休止。日差しを受けるも乾いた空気で爽快だ。ここから5分下ったところに「荒山」の指導標石が埋め込まれていた。
H 1 5 8 5 地 点	10:40	〃	五龍岳手前の急登ピークで再度ストックを収納して登る。阿寺方向と入道岳に続く稜線が近づいて来た。五龍岳を過ぎれば傾斜も緩そうだ。
五 龍 岳	11:30~11:40	〃	指導標柱が傾き殺風景な三叉路。五龍の池は水も無く分からない。
入 道 岳	12:20~12:35	〃	途中で親娘の2人連れとスライドする。阿寺から山口への周回ルートを行くと言う。到着直前に一人こちら方面を覗きにきた男と遭う。一緒に戻った彼から山頂で写真を撮って貰う。八ツ峰迂回路を進んで来た数人隊が「大日岳はここか?と」聞いて来た。歩き切った縦走路を眺めながら、おにぎりや缶詰を食べる。歩き出すと高年隊大勢が登って来た。
迂 回 路 へ	1:05	〃	計画の最初から八ツ峰へ行くつもりは無かった。連続する梯子下りから始まる。背中のザックが梯子に当たりバランスがとり難い。
千 本 檜 小 屋	1:45~1:55	〃	昨夜酒を全部飲んでしまったため、ここに着いてすぐ 350 缶ビールを買う。しかし 700 円はちょっとボロ過ぎだ。晴れて日差しを受けるが、今日は終日、駒ヶ岳と・中ノ岳のピークは雲に覆われていた。鐘を2つ叩いて下山する。
女 人 堂	2:30~2:45	〃	数分手前の水場で沢水を飲む。ロープウェイの音も聞えて来る。転んで足を捻った下山女性が居た。ガムテープと紐で固定してやった。
4 合 半 分 岐	3:20	〃	手前で木道が現れ、ロープウェイ駅まで 20 分とある。終わりも近い。
山 頂 駅	3:40	〃	いつもとは反対側の八ツ峰が見えて、歩行終了。丁度発車の便に乗る。
ロープウェイ駅	4:00	曇	ゴンドラがロープウェイに架け替えられて、以前と様子が変わっていた。禁煙登山後の一服を吸う。着替え等ののち、配置車で枝折峠へと向かう。R291の途中で中ノ岳の頂が見えた。
枝 折 峠	6:30	〃	6:00に大湯を通過する。峠への途中でミニパトカーと行き交う。駐車車両は殆んど無くなっていた。銀山平に下り、客が殆んど居なくなった白銀の湯に浸かり、自宅にカエルコール。シルバーライン経由で帰板。
与 板 着	8:30	〃	YHCポストに帰着メモを投函して帰宅する。その直前の7:30頃自宅に小出警察署から駐車車両についての問い合わせ電話があったと聞いた。ミニパトカーが本署に戻ってからの連絡と思われる。カエルコールの内容を伝えて了解とのことだ。

遠望が利けば、与板からこの3つの山の頂を見ることが出来る。そしてこの山の縦走は自分にとっては大きな憧れでもあった。けれども、どの資料を見ても厳しそうである。2年前の夏に駒ヶ岳を登った。その記録の末行に「八海山へのオカメノゾキは無理としても、…云々…」と書いている。その後、集中して山を歩き、丹後山への、そして裏三山への単独縦走をこなして、この縦走への勇気が湧いてきた。妻についても、本人は不安を抱いていたものの、共に山を歩く様子を見て、大丈夫との判断をし、背中を強く押して同行させた。

この三山がけについては、山と高原地図の解説書に第1級の健脚コースと書かれている。その通りで、特に中ノ岳～入道岳間は、上げ下ろしが激しく、痩せ尾根が続き、きついコースだ。幸い好天に恵まれ無風だったせいも、オカメノゾキは予想よりも恐怖を感じなかった。しかし、一度転べば「サヨウナラ～」となるだろう。雨や風の強い時は危険だと思う。

遠望は無かったが、豪雪に削られた沢の景観は素晴らしい。そこを完歩することが出来、満ち足りた気分で、その達成感はとても大きい。

翌日の脚の疲れは当然だが、鎖や岩稜のよじ登りで両腕と上半身の疲労が加わった。

(歩き出し時の荷重：15.6kgと8.4kg)